

シチズンセイミツ株式会社におけるQC検定の実施事例のご紹介

シチズンセイミツ株式会社
総務部人事課 小野寺真弓

1. はじめに

シチズンセイミツ株式会社及びシチズン時計株式会社は、山梨県富士五湖地域に本社を置いております。シチズンセイミツ株式会社は1960年旧社名河口湖精密株式会社として創業を開始しましたが、特色として、腕時計生産技術を発展応用し、事業の多角化を行ってまいりました。現在は自動車部品製造を中心に、小型精密金属加工事業に特化して展開をしております。

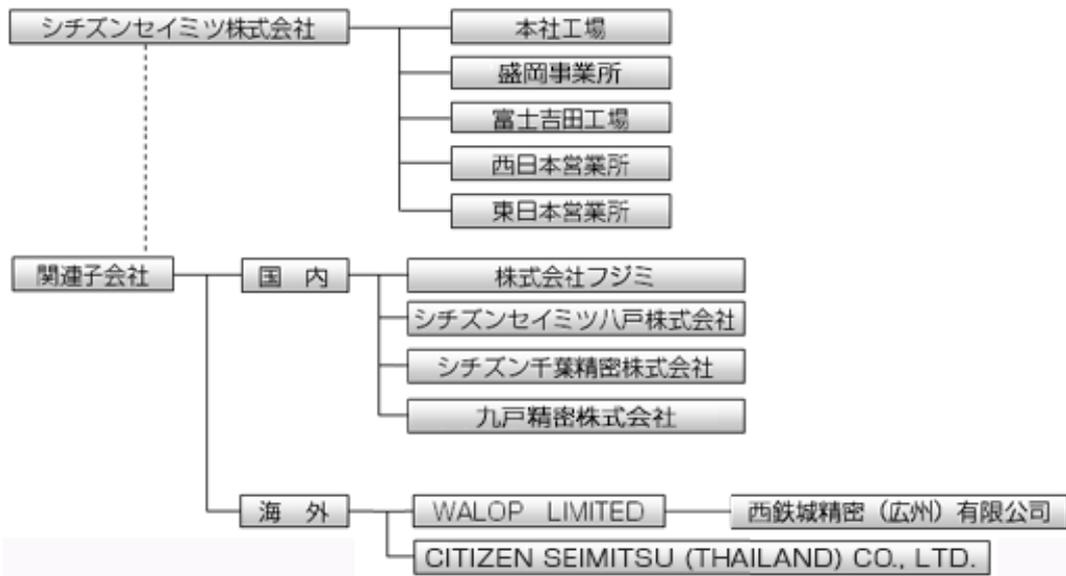
シチズングループの事業再編の中で、2010年にシチズンセイミツの時計事業部門が独立し、シチズン時計河口湖が設立されましたが、シチズン時計河口湖については、2013年7月よりシチズン時計マニファクチャリングが設立され、統合をされています。

QC検定については、シチズンセイミツ、シチズン時計マニファクチャリング河口湖富士工場、及び河口湖セイミツ工場が協同し、グループ会社として同一会場での試験を実施させていただいております。

また、2013年10月に、シチズンセイミツの盛岡事業所が設立されたため、こちらの受検希望者については、シチズン時計マニファクチャリング東北北上工場にご協力をいただき、協同受検をさせていただいております。

2. 会社概要

- 本社所在地：山梨県南都留郡富士河口湖町船津 6663-2
- 代表者：代表取締役社長 石綿修一
- 従業員数：550名<単独>
- 営業内容：精密加工（切削、研削、プレス）、表面処理（メッキ）、熱処理、製品組立、精密計測機器
- 事業内容：自動車部品、表示デバイス、業務用ミニプリンタ、精密計測機器
- 会社沿革：1960年7月 河口湖精密（現シチズンセイミツ）設立
1960年12月 腕時計部品製造工場として操業開始
1964年10月 計測器類（ダイヤルゲージ）の生産開始
1965年10月 外装部品（文字板その他）の生産開始
1974年3月 株式会社フジミ設立
1976年4月 水晶時計部品（LCDセルその他）の生産開始
1991年6月 富士吉田工場操業開始
1997年9月 WALOP LIMITED 花都工場（中国・広東省）操業開始
2001年2月 香港支店設立
2003年9月 全社統一のISO9001:2000を認証取得
2004年7月 ISO14001認証取得
2010年4月 時計事業を分社化し、シチズン時計河口湖株式会社を設立
2013年4月 CITIZEN SEIMITSU (THAILAND) Co.,Ltd.設立
2013年10月 盛岡事業所新設立



○ 会社写真：シチズンセイミツは富士山の国立公園内に位置しております。そのため環境配慮型企業ということを特に意識し、公園工場づくりを推進しております。



シチズンセイミツ本社工場（山梨県南都留郡富士河口湖町）の写真

<http://seimitsu.citizen.co.jp>

3. 導入の経緯について

QC検定を先に導入したのはシチズン時計マニュファクチャリング河口湖富士工場及び河口湖セイミツ工場（旧シチズン時計河口湖）でした。シチズン時計マニュファクチャリング河口湖富士工場及び河口湖セイミツ工場（旧シチズン時計河口湖）には時計学校という組織があり、時計学校を中心に従業員の育成を行っていました。その中で、「技能・技術の向上」を目的としてランク認定制度を設けており、ランク認定条件の1つに公的資格取得があり、QC検定は1級、2級、3級がそれぞれの条件に当てはまるところから、全社的にQC検定の取得奨励を行いました。

シチズンセイミツは模倣する形で、2011年9月の試験から導入をしました。まずはシチズンセ

イミツの若年者研修のプログラムの中に取り込み、当時入社2年目の社員が中心となって試験に臨みました。

第1回目の受検者総数は34名（併願含む）で、各々で甲府会場へ赴き、受検してきました。実際に「QC検定を社内に導入しよう！」という発案者の人事課長も受検をし、2・3級を併願し合格したのですが、勉強し試験に臨んで改めて「これは社内に展開したい！」と決意をし、社内周知・展開を進めていきました。

4. 具体的な取り組みについて

導入当初はシチズンセイミツ及びシチズン時計マニュファクチャリング河口湖富士工場及び河口湖セイミツ工場（旧シチズン時計河口湖）ともに30名ほどの受検者であったため、試験当日は各々で受検会場へ赴き、受検してくるような形をとっていました。シチズンセイミツ及びシチズン時計マニュファクチャリング河口湖富士工場及び河口湖セイミツ工場（旧シチズン時計河口湖）の所在地は、山梨県の一般受検会場となっている甲府市から少し距離があり、車で行っても1時間近くかかります。移動が受検者の負担になり、何とかできないだろうか、品質管理検定センターにご相談させていただいたところ、団体受検Bというものがあることを教えていただきました。

グループ会社ということで、シチズンセイミツ及びシチズン時計河口湖の2社で100名の受検者を募り協同受検ができれば、試験会場をシチズンセイミツ本社工場に指定することが出来るということでした。

まずは部課長が集まる会議体でQC検定についての周知と受検の募集を行い、部課内での周知と受検奨励をお願いしました。また従業員個人にも周知を徹底できるよう、社内にポスターを掲示したり、社内放送にて呼びかけをしたりしました。シチズンセイミツ人事課では、早朝より門の前で従業員へQC検定の宣伝のビラを配ったりもしました。

その甲斐あって、当初は2社で受検者100名を目標にしていたのですが、200名近くの受検者を募ることができました。

また合格率UPのために、模擬試験や模擬試験の結果を踏まえての解説会を実施しています。シチズングループではビジネスライセンス制度を設けており、認定された資格を取得した従業員に対し、資格のランクに応じて報奨金を支給したり、社内公知したりする仕組みがあります。QC検定3級以上もこのビジネスライセンスの資格に認定されており、従業員のモチベーションの1つとなっています。

さらに、シチズンセイミツでは、日本規格協会様が実施している、QC検定1級取得に向けた22日間講習に品質管理に携わる若手社員を毎回選抜受講させ、QCエキスパートの養成を図っています。

また、現在では2社だけでなく、更にその子会社も含め受検の推進を行っており、受検者の拡大が図られています。特にシチズンセイミツの子会社である株式会社フジミについては、模擬試験・勉強会などを独自で開催し、合格率の向上を図っています。

○模擬試験／解説会の様子

写真は模擬試験の解説会の様子です。模擬試験の全体得点が低いところに的を絞り、社内講師による1時間程度の解説会を実施しています。



○実際の試験実施時の写真

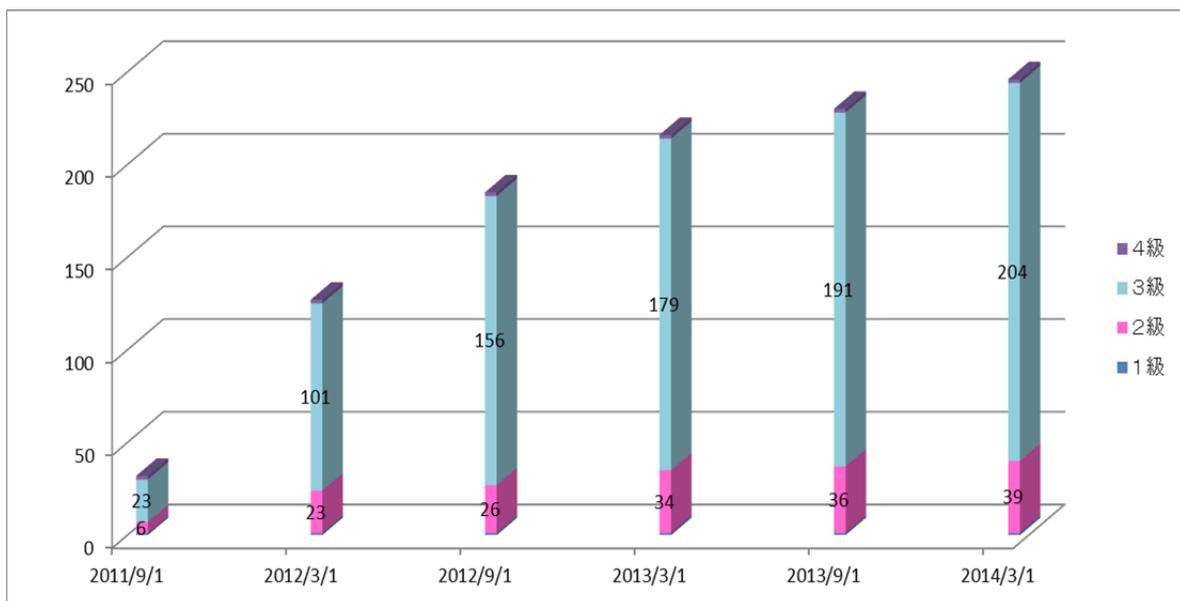
1回の受検者が200名弱いるため、シチズンセイミツの食堂及び大会議室の2会場を用意し、試験を行いました。品質規格協会様より1名の主任監督員を派遣していただき、シチズンセイミツとシチズン時計マニュファクチャリング河口湖富士工場及び河口湖セイミツ工場の従業員より計7名の監督員を選出し、試験運営を行っております。



5. QC検定合格者推移

シチズンセイミツ株式会社：2011/09/04の試験日より受検開始

(2011/3月実施分は東日本大震災により試験が中止)



※ QC検定4級以上の取得者数 : 246名 (2014/04現在)

※ 2・3・4級の合格率は毎回全国平均の合格率を上回っております。

※ 2014年4月現在では、直雇用（契約社員等含む）従業員の半数が、QC検定を取得しています。

6. 新たな取り組み：QCサークル活動

「QC検定で学んだ知識、技術をもっと使っていこう」と、近年しばらく行われていなかった2013年度よりQCサークル活動を復活させ、取り組んでいます。業務改善や品質向上はもとより、職場の活性化や人材育成にもつなげていくことを狙いとしています。

○QCサークル全社大会の写真

QCサークル活動については、部門単位で行われた大会より、優秀チーム4チームが選抜され、全社大会が行われます。



7. 合格者の声

『3級合格者の声』 間接部門所属女性従業員

・仕事・家事／育児の合間をぬって、購入した教材を使い勉強していました。現在育児短縮勤務の制度を利用し、帰宅時間を通常より早めているのですが、模試には必ず参加し自分の実力・ウィークポイントを知るようにしました。入社してからずっと間接業務に携わっていますが、今回の受検を通して、品質に対する意識の向上が一番の成果であると思っています。我が家にはもうすぐ2歳になる息子がいますが、最近言葉を覚え始めました。その子供が「QC」という言葉を言い出しました。私がQC検定を受検し、「お母さんQCのテストだから」と、言っていたのを覚えていたようです。我が家にもQCという言葉が広がりました。

『2・3級合格者』 製造部所属若手社員

・前回3級に挑戦したのですが、あえなく不合格・・・

とても悔しくて、絶対合格したかった。それをばねに次は2級と3級を併願受検しました。正直2級は難しく、同じ部署でも、取得している人が周りにいなかったため相談できる環境でなかったため、参考書、2冊を購入し、独学で毎日勉強しました。

勉強しているうちに、モノの見方が変わってきて、作業の流れなど再認識できるようになりました。また、日常の作業でも気づくことが多くなって改善提案もしやすくなったと感じます。

『2・3級合格者』 製造部所属若手社員

・同期と「報奨金獲得」を目標に受検したのですが、勉強しているうちに正直考え方が変わりました。

機械系の学校を卒業し、製造の仕事に就いて8年目ですが、なぜチェックシートをつけるのか、など単純なことですが改めて必要性について考える機会となりました。全てがすぐに仕事に活かせるというわけではないけれど、いざというときに引出しには絶対なります。特に3級は社内で学んで

いることや普段業務でやっていることの再認識・再確認になりました。

『2級合格者』 品質保証部中堅所属社員

- ・2級は統計や検定などが出てきて難しい！！ので、合格した本人が一番驚いています。品質保証の仕事に携わり7年になりますが、まだまだ知らないことが多いことに改めて気付かされました。受検にあたり、わからないところを技術や品証などの同僚に教えてもらったりしたので、コミュニケーション向上にもつながりました。「2級は敷居が高い」とまだまだ受検者は少ないですが、もっとたくさんの方に受検してもらいたい。特に技術や品証の方にはお勧めです。

『QCエキスパート養成中/22日間講習参加者の声』 品質保証部所属社員

- ・以前の職場でも品質保証の仕事に携わっていましたが、今年の4月に現在の職場に異動になり、5月から22日間セミナーに参加をさせていただくこととなりました。今回の講習は聞くことよりも自ら使ってみる演習が非常に多く、「一番大切なことは使ってみること」だと思いました。今回QC検定1・2級にも挑戦しましたが、QC検定取得は目的ではなく、手段です。それらの知識を使い、どう仕事に生かしていくかが大切だと思っています。前回、今回と、非常にたくさんの方がQC検定を受検されましたが、社内で共通言語になっているのは確かなので、皆さんと協力しながら、会社の品質管理を変えて行きたいと思っています。

8. QC検定を受検する学生の皆様に期待すること

シチズングループはものづくりを生業にしています。ものづくりはQCD（品質・価格・納期）を満たした製品を作り、お客様に満足していただくことが使命です。

品質という面においては、JAPANブランドは長きに渡り世界のトップを走ってきました。品質への意識、徹底した管理がそれを実現しています。

今後の日本のものづくりを支えていくのは皆さんです。新興国の台頭による価格競争の激化、金融不安による購買意欲の低下など、今後のものづくり業界を取り巻く環境は大変厳しくなってきます。そのような中で、JAPANブランドがお客様に愛され選んでいただけるようになるには、これまで以上に品質の良い製品を生み出していかなければなりませんし、製造の過程において品質管理を徹底し、ロスコストを抑え価格面でも競争に打ち勝っていかなければなりません。

ぜひ学生時代から品質について考え学ぶ場を持ってほしいと思っています。それにはQC検定の受検はとても有益です。ぜひ挑戦してみてください。

9. 今後QC検定に期待すること、今後の社内での展開

品質に関する顧客からの要求は年々高まっており、それに応えていくのは容易なことではありません。品質管理を実施するためには、そこで働く人々の品質管理に関する意識、能力、改善能力が重要です。QC検定取得というツールを使い、改めて品質管理への知識・能力を高め、そこから意識改善へとつなげて行きたいと思っております。

以上